

WRO 2007 TAIPEI TAIWAN



大会会場
国立台湾大学スポーツセンター



開会式



開会式

大会報告

11月17日(土)、午前9時より開会式、9時30分より午前の競技が開始されました。レギュラー・カテゴリーでは2種目競技を午前と午後に分けて実施されました。

小学生の部の午前の競技は「ROBO PUZZLE RACE」でした。285mm四方の正方形のパネルに直線、曲線カーブ、直角カーブ、斜線、十字路などが黒いラインで引かれており、そのパネルを32枚並べて、コースを作成し、黒いラインに沿ってスタートエリアからゴールエリアまで走行し、走行タイムと通過したパネルの枚数がポイントとなるものです。走行は、2回行い成績のよい回が記録となります。

国内決勝大会では実施しなかった競技のため、9月の中旬から練習に取り組んできました。また、国際大会では完成したプログラムを持ち込むことや組み立てたロボットを持ち込むことが禁じられています。そのため、1時間の制限時間中にプログラムの作成とロボットの組み立て、そしてテスト走行を実施しなければならず、集中力が要求されました。

「ROBO PUZZLE RACE」では、組み立て開始直後に十字路の進行方向(今回は「Turn Left」)がアナウンスされ、それに合わせたプログラムを作成することになりました。また、組み立て時間終了後に十字路の進行方向以外、コース・レイアウトが変更され、一部の国の子供から驚きとあきらかに似た声が出ていました。

「サンダーバード53号」チームは、1回目の走行、2回目の走行も34秒台で完走しました。全般的にリタイアするチームが多い中、地元の台湾チームが12秒台で完走し、圧勝しました。(この台湾チームは、全体で3位となり銅メダルでした。)

午後1時から「ROBO RALLY」が開始されました。スタートエリアから障害物などのセクションを通過してゴールエリアに到達するまでのスピードと通過したセクションの数を競うものです。また、ゴールエリアにある風船を割った場合にボーナスポイントが加算されます。

午後の競技開始直後にトラブルが発生しました。完成したプログラムを持ち込むことが禁じられているため、審判から全チームに対してロボットのコンピュータ部(RCX)に転送済みのプログラムを消去するための処理を指示されました。このとき、午前中は問題なく完了できた処理が、午後はエラーが発生してしまい、処理を継続できなくなりました。(RCXが使用できない状態)そこでコーチが競技場に入れないため、選手二人の判断で、午前の競技に使ったRCXと取り替えて無事、対処しました。

1回目の走行は19秒台の自己新記録を出し風船も割りました。2回目の走行では、残念ながら途中リタイアとなりましたが、自分たちの力を十分に発揮できたと思います。

短時間でプログラム作成、ロボットの組み立て。また、思わぬトラブルに対する冷静な対応など、選手は練習どおりの力を発揮してくれたと思います。

全体の成績は、小学生の部、中学生の部の1位から3位までを台湾勢が独占し、高校生の部で日本チームの「X-Isoko」(神奈川県立磯子工業高等学校)が優勝しました。

「サンダーバード53号」チームは、メダルには届かなかったものの、「Excellence Award」を受賞することができました。

昨年の中国・南寧大会に続き、今回の台湾・台北大会の経験を、今後の指導に生かしていきたいと思っておりますので引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年11月26日

チーム サンダーバード53号 一同